

東 海 書 道 藝 術 院

平成 28 年 8 月

<http://www.toshogei.jp/>

第63回公募東海書道藝術院展 開場式・授賞式・祝賀会報告

平成二十八年四月十二日(火)

十七日(日)、愛知県美術館ギャラリー・名古屋市民ギャラリー両会場に於いて、第六十三回公募東海書道藝術院展が開催された。十二日午前十時、第一会場・県美ギャラリー八階で恒例の開場式・療養中の豆子名誉会長不在で寂しいが、役員・関係者一丸となってこの日を迎えた。尾関陶山副理事長進行で、始めに風岡五城会長挨拶。その後、加藤宏幸中日新聞社名古屋本社事業局長をお迎えして、幹部と大賞受賞・大場映翠氏による恒例のテープカットが行われ、



会長挨拶

れ、雰囲気も高まる。展示総数七百八十四点、今展はあいちトリエンナーレに伴う会場の事情で、院人以上の作品寸法が細くなり例年より展示のスケール感の後退したが、それぞれの作家が制約の内に、より質の高い表現を目指した。

午後、例年通りホテルキャッスルプラザにて催された授賞式と祝賀会は、それぞれ褒賞部・渡辺静流、渡辺清香両常任理事が進行を担当。入賞者二百二名、授賞式出席者は百五名。受賞者の緊張の裡にも晴れやかな表情が印象的だった。



開場式テープカット風景

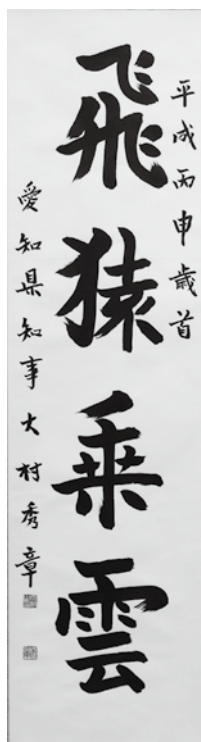


趙紅霞駐名古屋領事

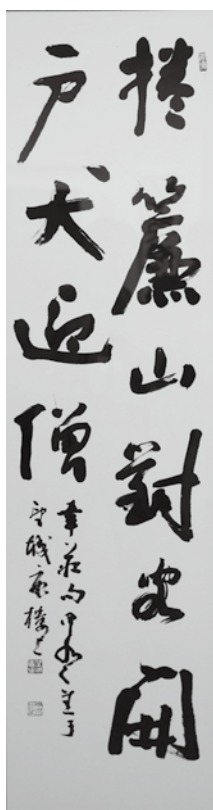
祝賀会は来賓二十七名、会員二百三十二名の出席。東書藝会員が最もほっとして和やかな気分になれる時間だ。来賓祝辞、来賓紹介、乾杯とスムーズな進行で賑やかな歓談の中、上位受賞者の披露など会場は大いに盛り上がった。褒賞部はじめ各部先生方の奮闘に感謝。また、県美会場への入場者数が二千二百八十八人、市民ギャラリー会場は二千四百三十六人。延べ四千七百二十四人で昨年より七十四人の微増で健闘。最終日には大村知事が来場され、風岡会長、久野副会長と一緒にこやかな表情でご覧になった。

第63回 東海書道藝術院展作品抄録

愛知県知事・名誉会長 大村秀章



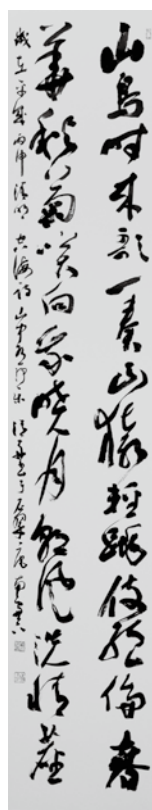
名誉会長 豆子甲水之



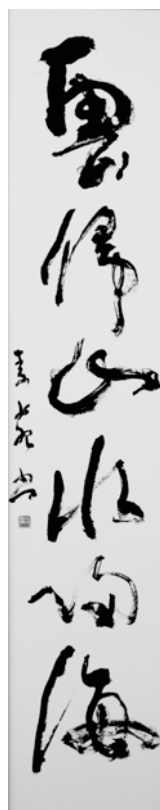
会長 岡五城



副会長 安藤清舟



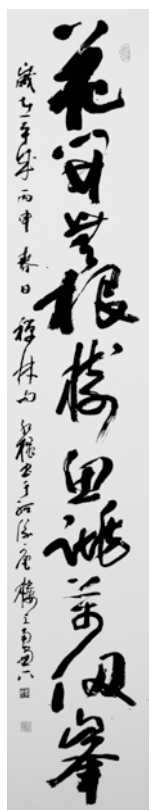
副会長 久野北崖



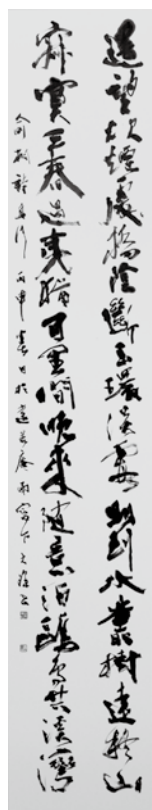
常任参事 今井麦苑



常任参事 西尾邑城



常任参事 水谷紅楓



理事長 木村大澤

会員の部 大賞 大場 英 翠

会員の部 準大賞 伊藤 春 草

会員の部 知事賞 浅井 阿由美

会員の部 領事館賞 菅野香楓

会員の部 県教委賞 廣江蘭秀

会員の部 市教委賞 水谷 彩 月

会員の部 中日賞 鈴木 晨風

会員の部 中日賞 高木 玲 泉

会員の部 東書藝賞 林 由 晶

東書藝幹部による

第六十三回展 私の選んだこの作品

幹部の七名の先生方に、賞の対象とはならない院人（常任理事以上の役員を除く）の中から、ご自分の社中以外でこれらと思う秀作を七点選んでいただいた。その方々のお名前と、内二作品の講評および作品写真を紹介する。

風岡五城会長

①小島芳泉

甲骨文字を素材とし、書線も結体も自在に変化させて一家の風を成す。抜群の安定感で落ち着く。

②坂 正歩

印はもちろんのことながら、それに添えられた書もいい。共に独自の風格を示し、構成も巧みである。

③伊藤 南邨

⑤堀田 清苑

⑦伊藤美どり

④佐野 小徑

⑥梶 蘇山

安藤清舟副会長

①中村 清葉

心地良い線条に和の美しさを表現。気負いなく書いていて充実感のある作。

②磯部 麗光

運筆自在で練度よく渴筆の妙味が生きた作。

③伊藤 南邨

⑤菅沼 松峯

⑦尾崎 清華

④市野 心蘭

⑥松井 恵仙

久野北崖副会長

①佐野 小徑

呉蘭雪詩。巧みな筆捌きで脈絡も良く、躍動しており筆勢筆力こもる線条で練達の作。

②石丸 琇湖

常建詩。文字の大小の調和も程良く素直で気負いや銜いのない線条で纏めており、安定感の有る作。

③堀田 清苑

⑤橋口 賢岑

⑦藤枝 静香

④古川 露風

⑥裏川 紫翠

今井麦苑常任参事

①野口 桂風

篆書を基に、字形、線質、構成など工夫され独自の作品感が伝わります。

②大竹 翠葉

自詠詩の作品を今までにも発表されて憧れています。

無理のない安定した格調ある作品。

③栗部 紅樹

⑤杉原 和香

⑦安藤 花影

④松田 真香

⑥納堂 玲泉

水谷紅楓常任参事

①竹田 清章

勢いのある大胆な運筆で、悠々と三行をまとめ上げた堂々たる書作。

②花井 萃川

一気呵成の連綿は、筆よく動き、力むこと無く、ゆるぎない快作。

③好田 小沙

⑤菅沼 松峯

⑦中村 清葉

④市野 心蘭

⑥小川 若紫

西尾邑城常任参事

①石山 荷心

二字書の老子の言葉。小字の数の纏め方の墨色、粗密、太細の空間の美しさ見事。

②村瀬 美帆

三行書きの行草作品。じつくりと紙にくい入る深い線質、空間、行間の美しさは観る者の心を和ませしてくれる。

③藤井 佳香

⑤佐野 小徑

⑦大西 紫蓉

④竹内 一逕

⑥八木 一華

木村大澤理事長

①小島 芳泉

変化多様な線で立体感を演出した甲骨文。特に渴筆に味があり、筆さばきの妙が魅力の作品である。

②伊藤 南邨

重厚な書線と絶妙に変化する字形は流石の逸品。運筆のリズムも心地よい。充実の作である。

③小川 若紫

⑤赤堀 翠柳

⑦八木 一華

④水谷 紫舟

⑥堀田 清苑

香之楊柳新自春曉
香之楊柳新自春曉
香之楊柳新自春曉

清晨入古寺，初日照高林。曲径通幽处，禅房
花木深。山光悦鸟性，潭影空人心。万籁此
中寂，惟此鐘磬音。
常建題破山寺後院

鐘聲雖自雅靜蒼涼沈澁而愈有不可言喻之味
 耳聲愈平愈古漸由蒼涼者如雲乃音愈壯事似漸
 波而愈一樹老收都清如疎林空山月鐘兵前寄竹坡

淡上晴窗苦吟 辛亥巳春夜 飛如
憐玉升山 惠不政清陰 待永歸

[illegible]

不知此之將至
吳昌碩

便學尚癡癡。惟願業衡門。止內精。閑轅轡。良卑奉
警禮。策中是。酒不飲。是情。事。操。豈可不。然。崇。不。藉
游。屬。屬。尚。此。憂。尺。土。乎。姓。如。林。圃。驚。搖。動。想。聞。令。軌
然。形。至。舍。鳳。中。燥。開。塋。幽。蘭。隱。馨。美。氣。展。驚。獨。學。鳳
昭。義。舊。周。英。今。經。師。不。讀。而。針。業。齋。聞。米。隆。是。

玄陳賈味苦推遷不覺寓秋已三年因閑只憶郭家鼓
上橋空望往年船驚殘岸路引春衣下草甸魚白留
生水邊唯有春江看未厭繁砂遠石綠潺湲

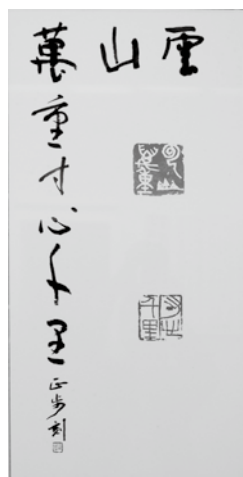
風勁角弓鳴將軍獵渭城羊牯鷹眼
疾空盡馬蹄徑直返新豐市還向
和柳營西為解脫雲外望蒼雲手主權的南都上

石會醉後樓頭三年春事也及此五月本年假如去席當休餘年不
列龍門音今咫尺人和我情還向暢師房去長寄新秋月意意濃
聲飽後報信向生南散重雅意通情志九月夜餘應書是二月不並

茅棘無人居門前車馬疎林幽偏聚鳥獸深
有藏魚山果摘兒攜身田舍婦鋤家中
何所有唯此一林書

吟杖探玄壑 徑隱東風料峭雪猶堆
冰來似龍吟 玉香散已有庭梅一朶開

大竹翠葉



坂 正 步



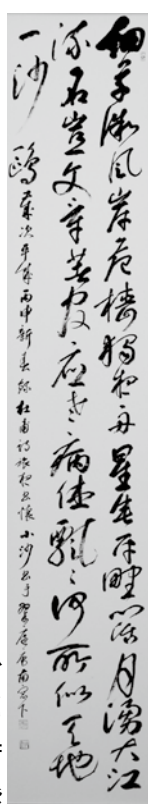
石 山 荷 心



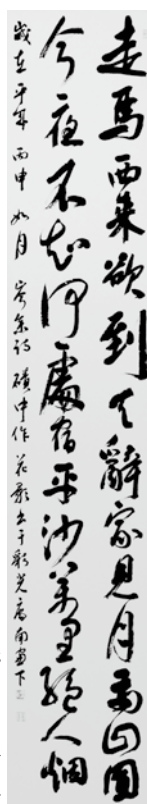
竹 内 一 逕



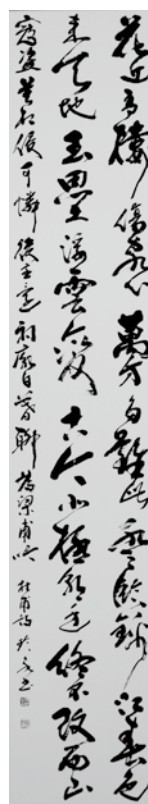
小 川 若 紫



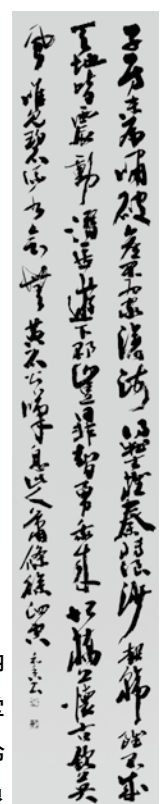
好 田 小 沙



安 藤 花 影



納 堂 玲 泉



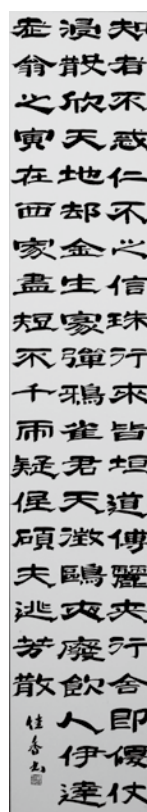
杉 原 和 香



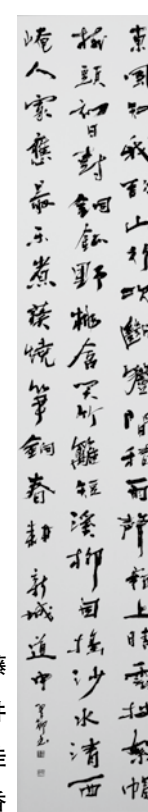
水 谷 紫 舟



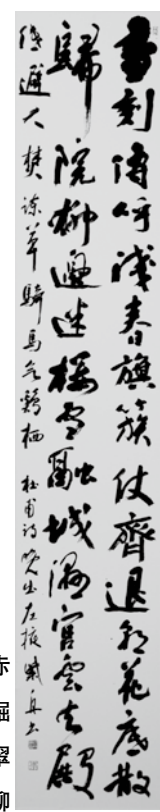
大 西 紫 蓉



八 木 一 華



藤 井 佳 香



赤 堀 翠 柳